

## 新型コロナウイルス感染から考えること

### ▲WHO の役割

今回の新型コロナウイルス感染によるパンデミック (世界的大流行) に関して、WHO が中国寄りであり、正しい判断をしていないという意見はメディアでもよく見られました。WHO とはどのような組織で、なぜこのような批判がなされるのか考えてみましょう。

WHO (World Health Organization : 世界保健機関) は国際連合の専門機関として第二次世界大戦後の 1948 年 4 月 7 日に発足しました。その日を記念してこの日が「世界保健の日」になっています。2018 年時点では 194 の国と 2 つの地域が加盟し「すべての人民が可能な最高の健康水準に到達すること」を目標に活動しています。

WHO の事業には病気の撲滅と病気に関する情報公開、災害地での医療活動、医療後進地への医薬品供給、安全な飲料水と食料の供給などがあり、世界的な規模で活動していますが、最も強力に取り組んできたのが感染症の予防とその対策に関する事業です。

天然痘という恐ろしい病気は 1980 年に地球上から根絶されましたが、これは WHO が精力的に活動してきた成果の一つです。しかし、ウイルスの根絶は非常に困難であるということは、冬季に流行するインフルエンザウイルスを考えてもわかります。そして今回の新型コロナウイルス感染のように、人類が経験したことのない新たな致死性ウイルスが出現してパンデミックが発生すると、社会は大混乱になり、対策費用も莫大なものになってしまいます。こうした状況に対応するため、WHO は世界横断的に 24 時間体制で世界の感染症を監視しています。その情報源には三つあり、一つは地球規模感染症ネットワークと呼ばれるものです。これは WHO とカナダ保健省とが共同開発したインターネット・サーチエンジンを活用したシステムです。それ以外には各国 WHO 事務所からの報告を受けたり、WHO のパートナー機関からの報告も受けたりしています。パートナー機関としてはユニセフ、国境なき医師団、国際赤十字などがあり、それらの組織で現地活動している人からの報告も貴重な情報源になっています。

感染症が発生したときの WHO と加盟国、加盟地域に課せられた行動は、「WHO 憲章第 21 条」に基づく国際規約に規定されています。これは「国際交通に与える影響を最小限に抑え、疾病の国際的伝播を最大限防止すること」を目的とした規約で、1951 年に制定されたものを、2005 年に大幅改定されて現在に至っています。改正前にこの規約が対象としていた疾患は、黄熱病、ペスト、コレラの三つの感染症のみでしたが、それでは現実の感染症に対応しきれないことを経験したからでした。

改正の契機となったのは 2003 年に明らかになった SARS (severe acute respiratory syndrome : 重症急性呼吸器症候群) でした。2002 年 11 月に中国広東省で通常の肺炎とは異なった肺炎 (非定型肺炎) が発生しました。その当時は原因が分からず、そのままになっていましたが、2003 年 2 月 11 日に広東省においてこの疾患に関しての記者会見があり、WHO はこの非定型肺炎の存在を知ることになりました。更に 2003 年 2 月 28 日にはベトナムのハノイにあるフレンチ病院から、この非定型肺炎の原因は鳥インフルエンザかもしれないとの報告が、WHO のハノ



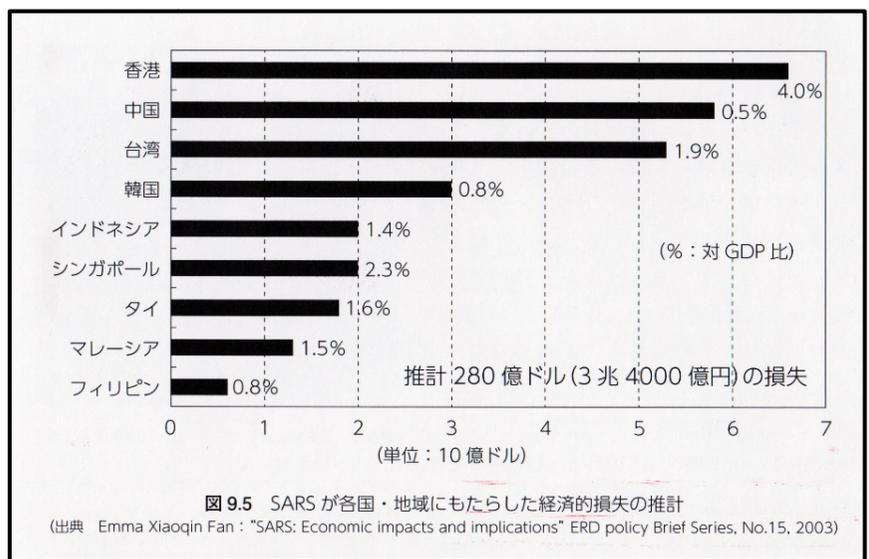
イ事務所に知らされ、世界中がこの SARS を知ることになりました。中国広東省での発生から三か月ほど経ってのことでした。

フレンチ病院でこの非定型肺炎の患者さんを診察したのは、イタリア人医師のカルロ・ウルバニ（前ページ写真）でした。この疾患はこれまでの鳥インフルエンザやクラミジア肺炎とも異なると WHO の西太平洋地域事務局に報告し、この疾患が国境を越えて広がっている可能性が強く示唆されました。WHO は直ちにベトナム政府の了解を得てハノイで緊急会議を開き、フレンチ病院の閉鎖、該当疾患の患者を隔離病棟のある別の病院に移送させています。このウルバニ医師は若い時には「国境なき医師団」に所属していたこともあり、積極的に患者の診療に参加していました。同年 3 月 11 日にバンコクで開かれる学会に参加するためバンコク行の飛行機に乗った際、自分がこの疾患に感染していることに機内で気づき、バンコク到着後は迎えに来ていた職員に対して近づかないよう指示し、救急車の到着を待ってバンコク内の病院に入院しました。WHO は 3 月 12 日に重症の非定型肺炎が国境を越えて広がっていると世界に対して警告を発したのです。ウルバニはハノイに残っていた家族にイタリアに帰国するよう指示し、自身はバンコクでの治療を受けましたが、残念ながら 3 月 29 日にこのウイルス感染症で死亡しました。4 月 16 日に WHO はこの疾患に対して SARS と命名しています。SARS はこれまでの疾患とは異なる全く新しい疾患であるというウルバニの指摘を受け、WHO は SARS 対策を素早く行えました。そしてウルバニから採取した喀痰などから、米国の CDC (Centers for Disease Control and Prevention : アメリカ疾病予防管理センター) は SARS ウイルスの分離に成功したのです。

### ▲SARS の教訓

2002 年に中国南部で肺炎患者が出現しており、原因は鳥インフルエンザかもしれないなどの疑いがあり、WHO は中国での現地調査を提案していますが、中国政府はそれを認めず、WHO 職員は入国を許可されませんでした。2003 年 3 月 26 日に中国国務院衛生部は WHO に次のように報告しています。「2002 年 11 月 16 日から 2003 年 2 月 9 日にかけて、広東省で合計 792 例の非定型肺炎症例が発生し、そのうち 31 例が死亡した」また同年 4 月 20 日にはそれまでに公表していなかった 399 例の SARS 発症者数を追加で WHO に報告しています。しかし、その時点で中国の SARS 患者は約 2000 名に達していたとされています。こういった広範囲の流行や社会不安の予想外の大きさから、北京市長と国務院衛生部長（日本の厚生労働大臣にあたる）が更迭されました。原因が分からない肺炎の出現報告がもっと早く WHO に報告され WHO が調査できていれば、感染拡大を防ぐことができただろうと指摘されています。

そしてこの SARS 拡大に伴う経済活動に対するマイナスの影響は、右のグラフのように予想以上に大きなものになってしまいました。アジア開発銀行の推計によると世界では 280 億ドル（その当時では 3 兆 4000 億円）の経済的損失があったとされています。こういった SARS の教訓が世界中で認識されるようになり、感染症の情報はできるだけ早期に公表しようという方向に意識が変わり、WHO で方針が変更されたのです。



## ▲WHO 憲章第 21 条の改訂

2005 年に改訂された「WHO 憲章第 21 条」の内容は次の通りです。前述のように改訂前は黄熱病、ペスト、コレラの三つの疾患が報告の対象をされていたのですが、改訂後は「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」（PHEIC: Public Health Emergency of International Concern）に該当するすべての疾患が対象となりました。

WHO への通告は加盟国・加盟地域の義務であり、PHEIC となりうる事態が生じたら WHO に **24 時間以内に通告**しなければならないという義務が課せられました。また WHO 本部もリアルタイムで情報を集めており、通告があがってきていない段階でも、当該国・当該地域に照会と検証を求めることがあり、加盟国・加盟地域は 24 時間以内に対応を始めなければならないことになっています。通告を受けると WHO では緊急委員会を設置し、PHEIC に該当するかどうかを判定し、該当すると判断した場合には WHO 事務局長が PHEIC 宣言を出すと同時に、当該国・当該地域に対して必要な措置をとるよう通告します。

## ▲2019 年 12 月武漢中心病院の状況

2020 年 5 月号の文芸春秋に、武漢中心病院救急科主任アイ・フェン医師の手記が掲載されました。この病院では眼科の李文亮医師が診療中に新型コロナウイルスに感染して死亡したことで有名になりました。このアイ・フェン医師は、亡くなった李医師にグループチャットでこの疾患の画像を送信し、そのことで周囲の医師たちがこの疾患の存在に気づいたのでした。手記の内容を抜粋してみます。

『2019 年 12 月 16 日、一人の患者が私たち武漢中心病院南京路分院の救急科に運び込まれた。原因不明の高熱が続き、各種の治療薬を投与しても効果が現れず、体温も全く下がらなかった。22 日、患者を呼吸器内科に移し、ファイバースコープで検査し、検体サンプルを外部の検査機関に送ったところ、「コロナウイルス」との検査結果が口頭で報告された。12 月 27 日、また一人の患者が運び込まれた。肺が手の施しようのない状態で、症状は全く好転しなかった。ファイバースコープ検査を行った。12 月 30 日の昼、他の病院で働く同期生が「しばらく武漢の海鮮市場には近づかない方がいいよ。最近、多くの人が高熱を発している」と知らせてきた。「本当かな」とも尋ねたため、パソコンで診断していたある肺感染症患者の CT 画像動画を送信した。その日の午後 4 時、同僚がカルテを見せにきた。「SARS コロナウイルス、緑膿菌」と書かれていた。情報を共有するために病院の公共衛生科と感染管理科に電話した。その後、同期生にもこの情報を送信したが、死亡した李文亮医師が友人たちに発信したのもこの情報だった。同日の午後 10 時 20 分、病院を通じて武漢市卫生健康委の通知が送られてきた。「市民のパニックを避けるために、肺炎について勝手に外部に情報を公表してはならない。パニックを引き起こしたら、責任を追及する」1 月 1 日午後 11 時 46 分に「翌朝、出頭せよ」との指示があった。私は前代未聞の厳しい譴責を受けた。帰宅後夫に「もし、私に何かあったら、しっかりと子供を育ててね」といった。』

手記はさらに続きますが、アイ・フェン医師はその後消息を絶ったままになっています。（興味のある方はぜひこの手記をお読みください。）

## ▲台湾から WHO への報告メールは無視された

この武漢中心病院での肺炎患者の情報を中国当局がいつ WHO に連絡したかということですが、ネット上では異なった日付が記載されています。12 月 31 日に通告したという記載もあるのですが、「コロナウイルス病 2019 (COVID-19) に関する WHO-中国合同ミッション報告書 2020

総力特集 日本英知で「疫病に打ち克つ」  
中国政府に口封じされた  
武漢・中国人女性医師の手記  
全文掲載  
アイ・フェン  
武漢市中心病院救急科主任  
「肺炎について絶対言うな。自分の旦那にも言うな」  
幹部はこう指示した

年2月16-24日第一段階」という報告書では流行に関する情報が1月3日にWHOに通知されたと記載されています。この文章を書いている2020年6月中旬ではここまでしか調べることができず、どちらが正しいのか不明です。「PHEICとなりうる事態が生じたらWHOに24時間以内に通告しなければならないという義務」があることを思い出してください。

なお、最も早くこの疾患に関してWHOに通知したのは台湾でした。2019年12月31日午前3時頃、台湾中央感染症指揮センター医療対策チームの羅一鈞副チーム長（当時は衛生福利部疾病管制署報道官）が寝付けずにいてSNSを開いたところ、感染症専門医のグループでネット掲示板の投稿がシェアされているのを見つけたのでした。この投稿では、中国・武漢でSARS（重症急性呼吸器症候群）に似た感染症が発生している可能性がある」と指摘されていました。投稿には、「現地の市場に関係する7人の感染が確認された」と、武漢の李文亮医師が告発する会話内容のほか、検査報告や胸部CT検査の画像が添付されていたのでした。台湾の羅一鈞は武漢では院内感染が発生しており、感染の懸念から患者を隔離していると認識するに至り、即座に衛生福利部（保健省）疾病管制署の防疫グループに関連の資料を送信し、それがWHOに通知されたのでした。しかし、WHOはその通告を無視しました。なぜでしょう。

WHOはこのメールについて「人から人感染の可能性には触れられていない」との立場を示していますが、患者を隔離して治療をしているということは人から人への感染の可能性が高いことを意味しており、WHOの判断には疑問が持たれます。WHOは1月14日、新興感染症対策部門を率いるマリア・ファン・ケルクホーフェが記者会見で次のように述べています。「この疾患は人から人への感染が確認されていない」また別の文面では「確認された41人の患者に基づけば『限定的な人から人への感染が起きる可能性』があると指摘し、より広範囲で流行する恐れがある」と述べたとされています。原文を確認できないので、どちらが正確なのか残念ながら私には判断できませんが、WHOが台湾からの報告メールを無視したのは事実です。



最終的に、中国政府の専門家チームは1月20日「ヒトからヒトに感染したことが証明された」と明言したのでした。なお、医師の李文亮（写真右）は「健全な社会であるならば、声は一つだけになるべきではない。公権力が過剰に干渉することには同意できない」という言葉を遺して、2020年2月7日に、新型コロナウイルス感染で亡くなりました。

### ▲WHOの初動

それではWHOは新型コロナウイルスが出現したとき、中国にどのように対応したのでしょうか？メディアで流されたテドロス事務局長の発言には中国の行動を誉めそやすものが多く、驚きました。今年2月12日の記者会見で彼は次のように発言しています。「中国のしたことを認めて何が悪いのか」「中国は感染の拡大を遅らせるために多くの良いことをしている」「ほとんどすべての加盟国が、中国の対応を評価している」「（習近平主席は）知識を持っており、危機に対応するリーダーシップを発揮している」

しかし、今年6月になって各種メディアにWHOの初動時会議録などが公表されるようになりました。6月3日朝日新聞の記事を引用してみます。「感染拡大の初期、WHOはどうやって中国当局の反発を招かずにウイルスの遺伝子配列や詳細な患者データの提供を求めて圧力をかけるかを議論。対応によっては情報を得る手段を失うことや、中国の科学者たちの立場を悪くすることを懸念したという。中国から遺伝子配列などの情報提供が遅れていた1月6日からの週、WHOの緊急対応責任者は会議で、中国へ情報提供を求めて『ギアを上げる』時だと発言し、圧力を強める必要性を示唆。中国では1月2日の段階で遺伝子配列の解析に成功したが、公開されたのは11日だった。WHOの感染症専門家は『我々は最小限の情報で仕事をしている』『適切な対応計画を立てるためには明らかに情報が不十分だ』と中国の対応に不満を示したという。結局、1月28日にWHOのテドロス事務局長と習近平主席が北京で会談したことで、中国は現地調査を含む詳細な情報提供を受け入れた形となった。」



る際に、きちんと加熱調理されてない動物の肉を食べたり、料理に際して動物の血液や排せつ物に触れたりすることで、動物のウイルスに直接接触し、そういった機会を重ねることで、ウイルスが変異してヒトに感染するようになることが考えられます。世界的に続出している新型感染症の70%以上が動物由来であるとの指摘もあります。野生動物を食用とすることの危険性は、こんなところにあるのです。「野味」習慣が残るなら、新たなパンデミックの発生はあり得ます。

2002年に中国で確認されたSARSウイルスは、中華料理の食材であるハクビシン由来が有力でした。また、ハクビシンを飼育していた施設で、コウモリが持っていたウイルスが流行し、それに感染したハクビシンが市場に運ばれ、人が食べて感染したのではないかと考えられています。更にはコウモリウイルス間の遺伝子組み換えでSARSウイルスが誕生したのではないかと考えられてもいます。2012年のMERSウイルスもヒトコブラクダから感染していますが、このウイルスもコウモリから類似の遺伝子が検出されており、コウモリコロナウイルスが遺伝子変異によってヒトコブラクダに感染し、それがさらに人に感染するようになったと考えられています。

中国政府は2020年2月に野生動物を食べる習慣の根絶や野生動物の全面的な取引禁止を決めて公布していますが、1000年以上続く庶民の食習慣が、こういった一回の公布で完全に無くなるとはとても考えられません。また、野生動物の肉は入手しにくいいため、中国では接待に使うと喜ばれるとのこと。このため警察幹部や高級官僚をもてなすときに、この野味料理が好まれているとも指摘されています。

中国を中心とした野味習慣が今後無くなってしまおうとはとても考えられず、これからも動物からの変異ウイルスが発生する可能性はあると想像されます。だからこそ、今回の新型コロナウイルス感染によるパンデミックを引き起こしたその原因を世界が協力して明確にし、中国政府やWHOの初動の問題点をきちんと洗い出して指摘し、二度とこのような失態を招かぬよう世界的な取り決めを確立する必要があると考えています。

## ▲中国の夢とは

「中国の夢」という言葉があります。習近平主席が述べていますが、このことに関して、彼の発言を経時的に確認してみました。ちなみに彼は私と同じ1953年生まれです。

「誰も理想や追い求めるもの、そして自らの夢がある。現在みな中国の夢について語っている。私は中華民族の偉大な復興の実現が、近代以降の中華民族の最も偉大な夢だと思う。この夢には数世代の中国人の宿願が凝集され、中華民族と中国人民全体の利益が具体的に現れており、中華民族一人ひとりが共通して待ち望んでいる。」(2012年11月)

「小康社会の全面完成、富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家の完成という目標の達成、中華民族の偉大な復興という夢の実現は、国家の富強、民族の振興、人民の幸せを実現させるものである。中国の夢とはつまり人民の夢であり、人民と共に実現し、人民に幸せをもたらすものだ。」(2013年3月)

「中国の夢は国家の富強、民族の振興、人民の幸福であり、協力、発展、平和、ウィンウィンの夢でもある。それは、米国のアメリカンドリームや各国国民の夢とは共通している。」(2013年6月 オバマ大統領に対する発言)

オバマ大統領に対する発言を見ると、中国の夢というのは中国の人々の幸せを願い、世界各国とも協調して世界平和に貢献したいという意味にとれて微笑ましいのですが、最近の中国政府の施策をみていると、習近平主席の唱える中国の夢が当初のものとは異質なもの変化してきているように感じます。一帯一路政策を元にした途上国への対応、南沙諸島における人工島建設や軍事施設設置、尖閣諸島における繰り返す領海侵犯、香港の国家安全法制定など、習近平主席の唱える中国の夢とは「一帯一路政策によって、漢、唐、明の時代のように勢力圏を広範囲に拡大し、中華思想を元に中華民族の偉大な復興を成し遂げる」というものに変質して生きているのではないかと危惧しています。ただ、中国政府の方針への警戒感を個人個人の中国人に振り向けてしまっただけではないと自戒しています。私には中国の親しい友人はいないのですが、当方に通院する方の中に、中国の大学の方と非常に良好でかつ、互いに尊敬すべき態度で交流を重ねていた方がいました。「中国は…」といった、ひとくくりにして中国人に対応してはならないと思っています。

## ▲求められるべき対応

トランプ大統領は 2020 年 5 月 29 日の会見で、「中国政府が新型コロナウイルスの感染拡大を隠蔽した」と主張し「WHO への報告義務を無視し、その後も WHO が世界に誤った情報を出すよう、圧力をかけた」と述べました。WHO についても「米国が年間 4 億 5 千万ドルを拠出し、中国は 4 千万ドルしか拠出していないにもかかわらず、中国が完全に支配している」と批判し、「改革を求めたが、彼らは動くことを拒んだ。我々は WHO との関係を終了させる」と WHO からの脱退を表明しました。

彼は WHO に対して改革を求めたと主張していますが、今回のパンデミックに関して、自国の CDC (アメリカ疾病予防管理センター) または NIH (アメリカ国立衛生研究所) などに対しても、問題点の抽出、改善策策定を指示することが必要でした。そういったことを元に SARS の経験をきちんと活かさなかった中国政府や、的確に対応しきれなかった WHO の問題点を指摘し、将来発生しうる公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) を避けるための、迅速な手段を確立しなければなりません。WHO を脱退すれば済むということではありません。

今回のパンデミックがどの程度の人的、物的被害となり、いつ終息するかまったく見当がつきません。こんな世界的感染症拡大を二度と発生させないよう、世界中の関係機関が問題点を抽出し、一致協力して再発予防策を策定することが未来の人々のために最も大切なことです。【坂東】

**追記**：今年 6 月に中国政府は今回のパンデミックに関する「コロナ白書」を発表しました。その日本語訳が出るのを待っていたのですが、原稿締め切りまでには確認できませんでした。今回の『藍色の風』作成に際して、中国や WHO の初動には不明瞭な点が多々ありました。オーストラリア政府は、中国政府や世界保健機関 (WHO) の対応について「独立した検証」が必要と要求しましたが、中国政府は強硬に反対して豪州産大麦に追加関税し、同食肉の輸入を停止しました。しかし「独立した検証」は必要であり、中国政府は札束で頬を張るようなことは止めるべきです。

### 参考文献

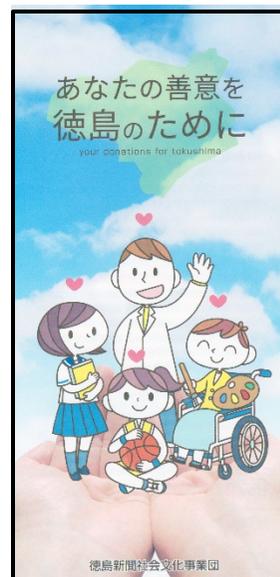
・猛威をふるう「ウイルス・感染症」にどう立ち向かうのか：河岡義裕/今井正樹監修「ミネルヴァ書房・人類と感染症の歴史 加藤茂孝 丸善出版・続・人類と感染症の歴史 加藤茂孝 丸善出版・中国が世界を攪乱する 野口悠紀雄 東洋経済新報社・新型コロナ感染爆発と隠された中国の罪 五味洋治他 宝島社・徳島新聞 2020 年 5 月 31 日・朝日新聞 2020 年 6 月 3 日・習近平の中国 林望 岩波新書・Wikipedia「中国の夢」「WHO」・文芸春秋 2020 年 5 月号・新型コロナ VS 中国 14 億人 浦上早苗 小学館新書・中国の行動原理 益尾知佐子 中公新書

## 徳島ハート奨学金

昨年「坂東ハート奨学金」制度を始めました。徳島県下の母子家庭の子供さんを対象に、大学進学の際の進学準備金として 50 万円を毎年二人に給付するという制度でした。募集や人選の業務は徳島新聞社会文化事業団に依頼しましたが、快く引き受けてくれました。

昨年度は 21 名の応募がありましたが、残念ながら規定通り二人だけにしか給付できませんでした。申込書を拝見しましたが、母子家庭の年収は私の予想をはるかに超えて低いもので、今後も応援を続けたいと思っています。

さて、この奨学金制度を知った患者さんの中から、「遺贈寄付で坂東ハート奨学金に寄付したい」というお申し出を頂きました。また「私も協力したい」というお声もたくさん掛けていただきました。それなら「坂東ハート奨学金」という名称を「徳島ハート奨学金」に変更し、全県下からこの奨学金制度に賛同いただける方にご寄付いただき、それを母子家庭の子供さんの大学進学応援にと考えました。そうすることで給付対象人数が増えればと期待しています。ご協力いただける方は私か、徳島新聞社会文化事業団にご連絡下さい。寄付金額の多寡は全く気にされることはありません。【坂東】



# 『誰にも相談できません』

私が注目している作家の一人に高橋源一郎さんがいます。毎日新聞に『人生相談』というコーナーがあるのですが、高橋さんはその回答欄を担当されています。私は時にこの『人生相談』を読みますが、どのように回答したらよいのかと思案投げ首になる質問も多々あります。そんな質問にも高橋さんは見事な回答文を寄せています。高橋さんの長年のいろいろな経験がそんな回答文を書かせるのでしょう。

この『人生相談』がいつか書籍化されるだろうと思っていましたが、最近『誰にも相談できません みんなのなやみ ぼくのこたえ』という書名で出版されました。早速読んでみましたが、その回答内容には脱帽することが多々ありました。その一部をご紹介します。

**質問：**82歳男性 「終活」の毎日。56年前の手紙を始末できません。職場で私に告白した女性は、(彼女に)婚約者がいたため距離をおいていましたが、異国の彼の元に飛び立つ前の半年間、もうもどれない地点寸前までいきました。でも私には略奪婚はできなかった。残された手紙が5通。半世紀の間、落ち込んだ時には手紙から不思議なパワーをもらってきました。その人は平穏な余生を過ごしていると聞き、「長い間おあずかりしました」と返送したいのです。

**回答：**大切な手紙を最後に送り主に返し、気持ちに決着をつけたいという思い、よくわかります。けれども、自分の都合ばかり考えるわけにはいきませんね。相手の方がどのように思うか。あなたのことを忘れようとしていたのなら、どうなのか。思い悩みます。もとより正解などあるわけではないのですが。

わたしなら残された5通に、もう一つ、自分の書いた手紙を1通同封し、いちばん信頼できる誰かに託すと思います。そして、自分が亡くなったら、そのときには、そのお相手に送ってもらうよう頼むことにするでしょう。その手紙には、こんなことを書くかもしれません。

「ほんとうにお久しぶりです。わたしのことをまだ覚えていただいているなら光栄です。お会いできなくなって半世紀以上がたちました。これは最初で最後の手紙です。あなたがこれをお読みになっているなら、わたしはもうこの世にはおりません。いただいたお手紙をお返すために、このようなことをいたしました。お許してください

あなたと過ごした時間はわたしの人生で最良の時間でした。そして、あなたが去った後、苦しいとき、わたしを助けてくれたのはあなたの残したこの5通の手紙でした。そのことをお伝えできたなら、もう思い残すことはありません。あなたのおかげで素晴らしい人生を送ることができました。心よりお礼を申し上げます。さようなら」

返送する手紙より、付け加えるもう一通の手紙こそ、わたしなら送りたいと思います。

私にはこういった回答は思いつきませんでした。いろいろな分野の『人生相談』に高橋流の思いや考え方で返事が書かれています。興味のある方はお読みください。【坂東】



## ありがとうございました！

今回の新型コロナウイルス感染に伴い、クリニックでも春先にマスクが少なくなったため、手作りのマスクカバーを作成して対応していました。そんな折「自宅に保存しておいたマスクですが、使って下さい」「マスクを手に入れることができたので…」と、たくさんの方からマスクをご寄付頂きました。おかげで、それまでの週に1枚のマスク使用から、3日に1枚、毎日1枚と、徐々に安全なマスク使用に移行することができました。本当にありがとうございました。【坂東】